

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.33 Autumn & Winter 2015

木へんに冬で「ヒイラギ」、春で「ツバキ」と読みます。ともにその季節が近づくと花を咲かせます。



柁
ヒイラギ



椿
ツバキ



トピックス

・海上の森はいま

第9回 人と自然の共生国際フォーラムが開催されました！
海上の森体験ツアー 見どころマップ最優秀作品発表！

・この人 ～愛知万博から10年を迎えて～ No.2

「万博をはさんで25年—森のある幸せ」

NPO 法人海上の森の会会員自然環境調査グループ所属 曾我部 行子氏

収穫祭が行われました

海上の里で11月22日に、里の教室の収穫に感謝する恒例の収穫感謝祭が行われました。

海上の森サテライトで行われた収穫感謝祭には、里の教室参加者や海上の森の会会員など260名以上が参加して、大人や子ども達が初めての餅つきに挑戦したり、搗きたてのお餅や猪汁を食べたり楽しい晩秋の1日を過ごしました。



特集 海上の森はいま

第9回人と自然の共生国際フォーラム開催報告

愛知万博開催から10周年にあたる本年のフォーラムは、メインテーマを「自然と共に歩む明日をつくろう」、サブテーマを「自然の叡智、つながり・ひろがり・これから」とし、10月3日(土)と24日(土)の二日間、開催しました。

3日には、県内の森林・里山・里海において



C. W. ニコル氏の講演

「人と自然のつながり」をテーマに啓発、教育活動を実施した8団体の活動発表会と、一般の参加者も交えた意見交換会を開催しました。24日には「森から未来をみる」と題したC. W. ニコル氏による講

演と、川井秀一氏をコーディネーターに、マリクリスティヌ氏をコメントーターに、NPO法人海上の森の会理事長の浦井巧氏始め印南敏秀氏、水野翔太氏をパネリストに迎えたパネルディスカッション等を開催しました。最後にフォーラムのまとめとして第9回フォーラム宣言を採択し、閉会しました。



パネルディスカッション

今回の内容は今後ホームページにより詳しく掲載しますので、是非ご覧ください。

<http://www.mu-academy.jp/forum/>

海上の森散策ツアー 見どころマップ最優秀作品発表!

平成27年8月20日、22日及び9月6日に愛知万博10周年記念「海上の森体験ツアー」を開催しました。

第1回、第2回は、小学4～6年生を対象に行われました。午前は、4班に分かれて設定されたコースを散策し、午後は、センターの工作室で子どもたちが観察したことを「海上の森の見どころマップ」として作成しました。



見どころマップ作製の様子

最後に作成者自ら説明するマップの発表会が行われました。出来上がった作品は、個性的で各参加者が見たままの海上の森が

表現されていました。

第3回は、はじめにマリ名誉センター長による講演が行われ、ご自身の海外での自然とのかかわりなどをお話されました。講演後、参加者は子供たちが作成した「海上の森の見どころマップ」を手に海上の森を散策しました。散策後、県陶磁美術館学芸員の佐藤氏による

「土の秘密」の講義が行われ、土という視点から海上の森を一層知るための興味深いお話を聞くことが出来ました。「海上の森の見どころマップ」は、人と自然の共生国際フォーラムで展示と各回のツアーで行った人気投票の結果発表が行われました。



見どころマップ最優秀作品

伊藤 祈さん 作

ツアーやフォーラムを通じ、改めて海上の森を見つめ直す良い機会となりました。この場をお借りして、参加者の皆様をはじめ、海上の森大学同窓会の皆様、その他ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

また、「海上の森の見どころマップ」は、展示室にて1月下旬まで展示しております。センターにお越しの際は是非ご覧ください。

この人～愛知万博から10年を迎えて～ No. 2

＜万博をはさんで25年—森のある幸せ＞

1989年秋、アキチョウジが咲いてアサギマダラが飛ぶ季節に、初めて海上の森を訪れた。もしこのときのスタートがなければ、自然観察、調査、間伐、田んぼ耕作など里山保全の道に入門することもなかったかもしれない。人中心に暮らしている日常から引いて里や森を見渡せば、人間が爆発的に多様な生きものに囲まれていることに目を見はらされる。

2005年開催予定の愛知万博では、会場として森が大幅に改変されることになっていた。森が姿を消す前にできるだけ多くの人たちに覚えていてほしくて、海上の森のみちはもはや知らない場所がないほど歩き、案内もした。1996年万博開催が日本に決定された。しかし、BIE（国際博覧会事務局）から「環境」でクレームが付き、開催は危ぶまれたため、2000年万博検討会議が開催された。その結果、森がほぼ無傷で残されることになるとは思いも寄らない幸運だった。今ふり返っても、万博検討会議は、委員が目的に向かって予定調和なく意見を言い、聞き合う民主主義的な会議だった。

では、その後の10年、守られた海上の森と里はどのように生かされたのか。欠けていたものは何か。欠けていたのは、目的がわかっているつもりで、問い直す作業が課題とされなかつ


たことだろう。2016年3月「海上の森保全活用計画 2025（仮称）」が決まる。森のガイドラインとして、管理者である行政とパートナーである市民の新しいスタートとが始まるのだ。

関わる人それぞれに目的は違うだろう。しかし目的を意識し、どこかで重ね合わせることができたとき、わたしたちはようやく「里山保全チーム」になれるだろう。

2015年11月20日

＜プロフィール＞

曾我部 行子

NPO 法人海上の森の会会員 自然環境調査グループ所属 1990年～1998年 ものみ山 自然観察会代表世話人 1999年～2002年 国営瀬戸 海上の森里山公園構想をすすめる連絡会 会員 2008年～2011年 NPO 法人生物多様性フォーラム理事 2008年～ 「海上の森モニタリングサイト1000」地域コーディネーター 「ようこそ自然保護の舞台へ」WWF ジャパン編 共著 「2005年国際博覧会予定地『海上の森』の環境診断マップ作成」（1989年度P.N.ファンド助成報告書） 「市民参加型社会とは—愛知万博計画過程と公共圏の再創造」有斐閣 共著	
---	--

センター職員随想リレー かたりべのひと言

＜子供の自然体験＞

子供の頃から生き物好きだった私は、ある日父にコモウセンゴケの自生地連れて行ってもらい、それが「食虫植物」であることを知りました。

「何っ？虫を食べる植物？」

その怪しい響きに興味を持ち、当時はまだ身近に多く自生していたモウセンゴケやコモウセンゴケ、イシモチソウ、ミミカキグサなどを見つけては、その姿やそこに捕らえられた虫たちを観察しました。

ときにはアリをコモウセンゴケのネバネバした腺毛の上に、「エサ」と称して乗っけてみたりもしました（アリさんごめんなさい）。

人が自然や環境に関心を持つには、まずは小さな頃から生きものに触れ、自然や生命に対する不思議や、畏敬の念を感じる事が大切だと思います。

子供たちのそんな体験の一部を海上の森が担うことが出来ればうれしく思います。（H.O）

展示の目玉 愛知万博10周年 愛・地球博思い出展

あいち海上の森センターでは、「愛知万博10周年 愛・地球博思い出展」を開催しています。

展示内容は、万博開催の経緯や成果、長久手会場や瀬戸会場の当時の写真、瀬戸愛知県会館の模型などです。愛知万博の原点となったここ海上の森で、当時の思い出を振り返ってみてはいかがでしょうか？

「愛知万博10周年 愛・地球博思い出展」は、1月下旬まで展示予定です。



森のなかま

ニホンリスは、海上の森では比較적으로よく観察される小型の哺乳類です。低山帯のマツ林を好むようで、アカマツが多い四ツ沢より南、三角点からセンター周辺、特に遊歩施設内で観察されます。松ぼっくりの鱗片を剥がして種子を食べた跡は、その形からエビフライと呼ばれます。こうした食痕は、動物がそこにやって来た痕跡として重要な情報です。しかし、このエビフライだけではリスか、ムササビなどが齧ったものかの識別は難しいと言えます。一般的に毛羽立ったエビフライはムササビの食痕と言われていますが観察の結果、7月から9月頃までタ

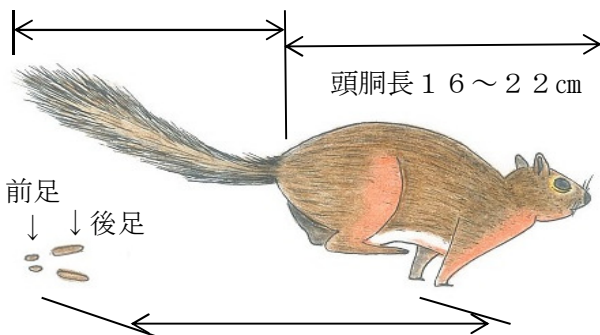
ニホンリス

ネが飛散する前の閉じた松ぼっくりは水分が多いためか毛羽立ったエビフライとなります。写真は、リスが落としたエビフライをたまたま観察したものです。エビフライが沢山落ちていたアカマツを見つけたら、まだリスがお食事をしているかもしれませんよ。SKI64



夏毛のニホンリス
齧歯目リス科

尾長 14 ~ 17 cm



頭胴長 16 ~ 22 cm

前足 ↓ ↓ 後足

跳躍歩行性 40 ~ 50 cm

平成27年7月17日 リスが落としたエビフライ。
このエビフライは毛羽立っている

参考文献

- ・フィールドガイド足跡図鑑 日経サイエンス社
- ・日本の哺乳類 東海大学出版会
- ・平成27年11月1日発行 自然保護 11・12月号 NO.548

編集後記

日々寒さが増す中、海上の森では、昆虫や花などを見る機会が少なくなり少し淋しい感じがします。ですが、冬鳥の来訪や水のない海上池散策などこの時期ならではの楽しみもあります。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)

発行日 平成27年12月〇日

〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>



ホームページQRコード